

設備工事情報シート	衛生	Ⅱ-P-36	制定	2017年3月1日
			改訂	
機器・材料	停電時開閉可能な雨水遮断弁		カワデン編	

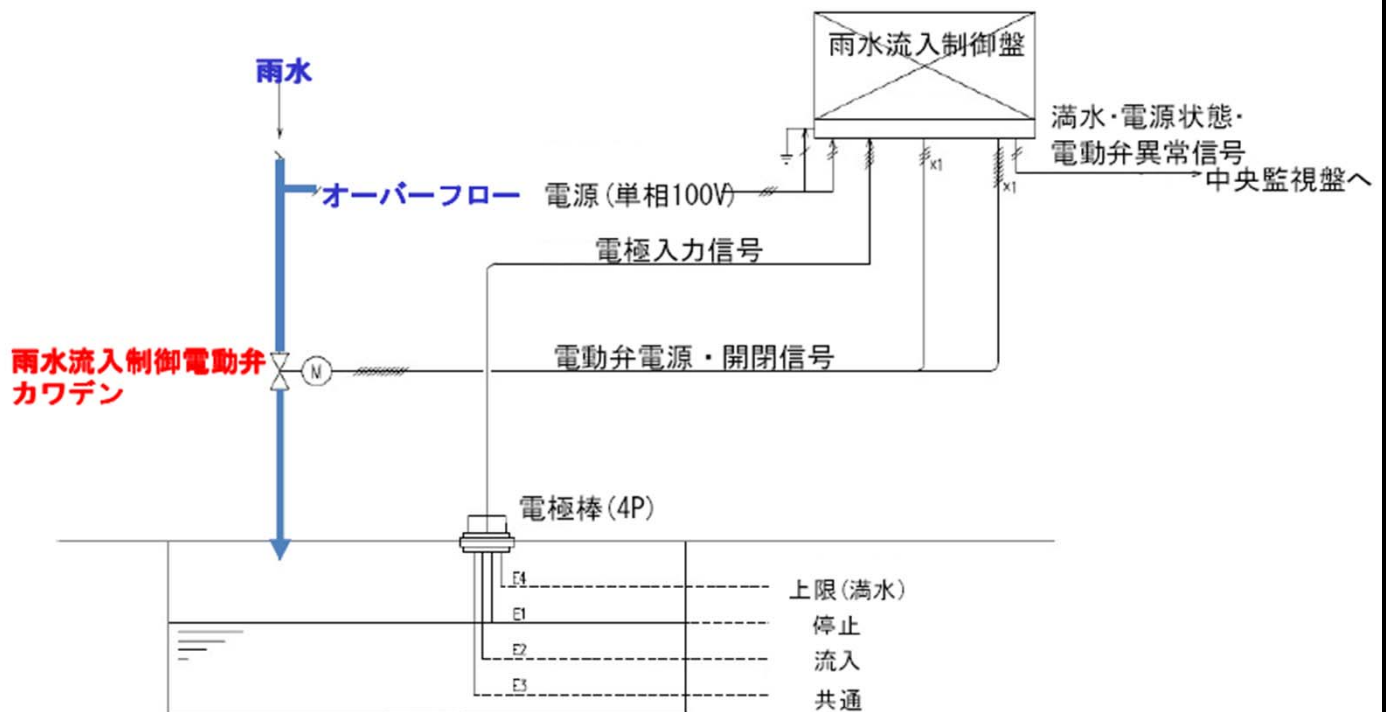
1. 目的・概要

近年、都市化の進展により、下水道施設、河川への負担が大きくなっている。更に、台風や集中豪雨の増加に伴い、都市型水害が頻発してきている。この対策として各自治体は雨水流出抑制施設の設置が指導されている。

具体的には公共施設、民間施設の新築、増改築を行う際、雨水貯留槽の設置、浸透施設の設置がされている。雨水遮断弁は雨水貯留槽の液面制御を行う自動弁である。

雨水遮断弁（キャパコン）は従来製品（ナイフゲート弁等）より、製品外観スペース小さく、軽量化により施工性にすぐれている。ゲリラ豪雨時に停電が発生した際も開閉可能なバルブになっている。雨水流出抑制商品、並びにゲリラ豪雨対策で有効である。

2. 雨水貯留槽に要求される機能



計画要求機能

- ・ 雨水貯留槽の水位による雨水遮断弁の開閉制御
- ・ 雨水遮断弁の開閉表示
- ・ 停電自動遮断機能付き
- ・ 異常時のリトライ機能
- ・ 異常出力を中央監視盤へ

作動説明

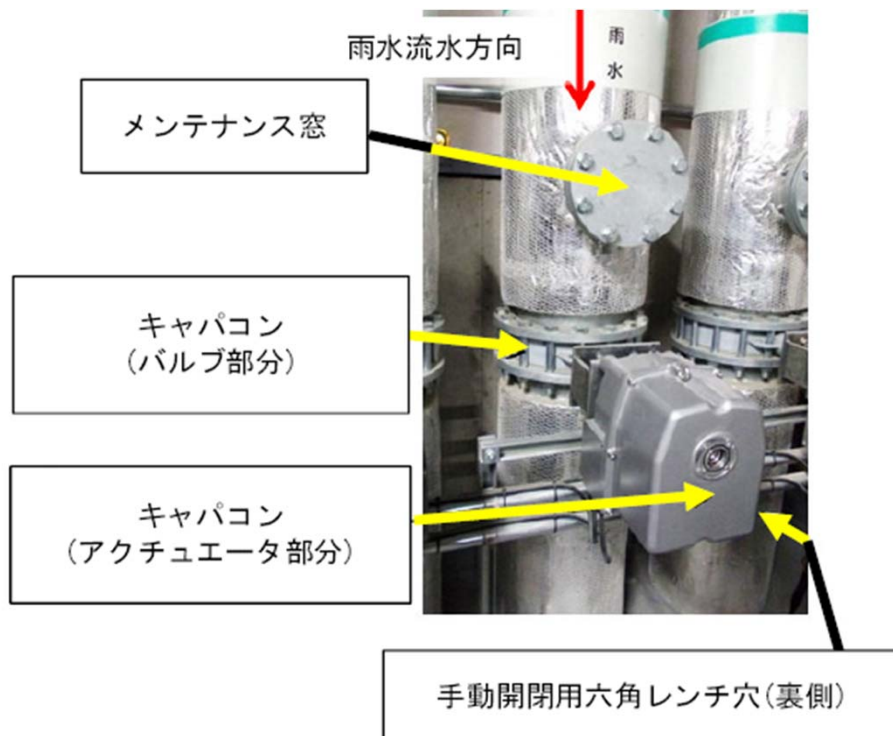
- ・ 通常作動はE2レベルで雨水遮断弁が開き、雨水を投入する。
- ・ 雨水レベルが上昇しE1レベルで雨水遮断弁は閉じ、雨水はオーバーフローで排水する。
- ・ 万が一、E2レベルを超えE4レベルになった場合、満水警報異常出力する。
- ・ 停電状態になると自動で停電を感知し、雨水遮断弁は閉止する。
- ・ 復電すると前の状態に自動復帰する。
- ・ 異常が発生すると、中央監視盤等に異常を発報する。

資 料

3. 雨水遮断弁（キャパコン）の特徴

- (1) 半永久に使用できる電池内蔵で停電時、開、閉の選択が可能である。
ゲリラ豪雨の際、停電になっても、開閉可能であり、地下浸水の危険を防止できる。
- (2) ナイフゲート弁等と比較し、最軽量、コンパクトで施工時の納まりが最小限である。
- (3) リトライ機能を搭載し、ごみつまり等でトルクがアップした場合、自動で2回の開閉動作を行う。
- (4) 2回のリトライ動作しても閉止できない場合は、異常出力を出す。
- (5) 自己診断機能（トルクアップ、開閉タイムオーバー、電池劣化診断）を持っているため異常が出ない限りメンテナンスフリーで使用できる。

4. 雨水遮断弁（キャパコン）の設置事例とメンテナンス方法



メンテナンス事例

配管のメンテナンス時、異物が詰まった場合、通常はバルブ本体を外す必要がある。
雨水遮断弁（キャパコン）の前面にメンテナンス窓（チーズ等）を取り付けることでバルブを外すことなく点検を可能にした。（上写真参照）

5. 問い合わせ先 株式会社カワデン

大阪本社 〒554-0052 大阪市此花区常吉1丁目1番55号 テクノパーク常吉11・12号地
TEL:06-6468-3511（代） FAX:06-6468-3611

東京支店 〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目9番2号 PM0岩本町7F
TEL:03-5833-7833（代） FAX:03-3865-6211

ホームページ <http://www.kk-kawaden.co.jp>
E-mail info@kk-kawaden.co.jp